

令和元年 6月定例会 一般質問(質問・答弁要約)



一般質問の様子は徳島県議会HPで動画配信しています。▶

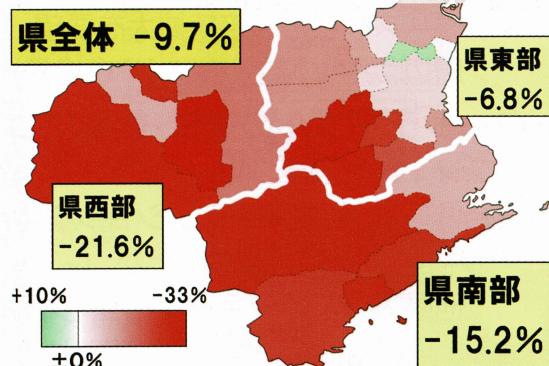
Q.1 南部圏域における人口減少対策について

南部圏域は南阿波定住自立圏を形成し、互いに役割を分担し支え合い、人口の定着を図っているが、これ以上人口が減少すると、もたない状況に陥ってしまうかもしれない。地域の魅力を引き出し、人やモノの流れを創出し、持続可能な活気ある地方創りをこれまで以上に取り組んでいく必要がある。南部圏域の豊かなポテンシャルを活かした人口減少対策に取り組むべきと考えるが、所見は?

A 飯泉知事

南部圏域振興計画に目標を掲げ、地域特性を活かした「持続可能な地域づくり」に取り組んできた。今年度からは「DMO・四国の右下観光局」を核とした広域観光の本格展開、事前キャンプ誘致が決定した東京オリンピックや、5競技種目が開催されるワールドマスターズゲームズ関西への機運醸成などにより、「四国の右下」ファンの拡大を図る。今後とも、管内市町や地元関係者と密に連携しながら、南部圏域における人口減少克服に向け、しっかりと取り組んでゆく。

市町村別人口増減率 (H17年→R元年)



平成17年から令和元年にかけて、各市町村別の人口増減をその割合で模式的に表したもの

<コメント・考え方> 豊かな自然、仕事があること、子育て環境が充実していることから、南部圏域への移住者も多いので、引き続き移住施策やサテライトオフィス誘致、魅力発信などに力を入れてほしい。「医・職・住」そういうことが大切であり、特に「医」の医療では、医師不足、診療科目偏在を一刻も早く解消することが重要。また前提として、“災害に強い”ことが大切で、県土強靭化、四国横断道などの早期整備も要望する。

Q.2 「若杉山遺跡」をはじめとする地域の文化財の活用について

若杉山の国史跡指定や、加茂宮ノ前で大きな発見がなされたこの機会を捉えて、県と阿南市が連携をして、これらの埋蔵文化財の「価値」や「魅力」を広く情報発信し、人の流れを作り出すことで、地域の活性化に繋がると期待している。若杉山遺跡をはじめとする地域の文化財について、どのように魅力発信し活用するのか?

A 県民環境部長

文化財を観光振興や地域活性化に活用していくことは極めて重要。阿南市の「加茂宮ノ前遺跡」は、今後出土品の整理作業に努め、「水銀朱闕連」の出土品について、「発掘成果報告会」等を行うとともに、地元阿南市での文化財展や、小中学校での出張授業を開催する。「若杉山遺跡」は絶好の機会となる今般の国史跡指定を最大限に活用し、阿南市との共催により、今後の活用を議論するシンポジウムを開催するとともに、公開、活用に向け積極的に施策展開を図って参りたい。



<コメント・考え方> 両遺跡とも歴史的に価値のあるもので、今後の調査研究が早く進むことを望む。出土品を阿南市内や遺跡近くで展示してほしいという声や、調査現場を残し見学できるようにしてほしいという声も多いので、阿南市と連携して、学習の場、にぎわいの場の創出を期待している。加えて、将来の活用を想定すると、両遺跡へのアクセス道路である県道阿南小松島線で、道幅の狭い持井工区の早期整備を求める。